

## 受講生に対するアンケート調査結果の分析

### 放送教育開発センター 大学公開講座研究班

放送利用の大学公開講座は、昭和51年の開始以来、すでに10年の歴史を持つ事業であるが、放送教育開発センターでは当初から全受講者に対する共通の受講後アンケートを、各大学の協力を得て実施してきた。初期のアンケート調査結果については、『MME研究ノート』第5号にその概略が紹介されている。その後、昭和58年にアンケート項目の大幅な改定が行なわれ、現在まで基本的には58年度版と同一の質問内容と形式が踏襲されている。

本稿は、昭和61年度における放送利用の大学公開講座受講者に対する受講後アンケート調査（各大学共通分）の回答結果を、58年度から昨年度までの調査結果と比較しながら紹介することを目的としている。あわせて、クロス表等を用い、本年度の調査結果の意味するところの若干の分析的考察も試みる。

#### 1. 大学公開講座の実施状況と受講者アンケートの回収状況

昭和61年度における放送利用の大学公開講座の実施大学は、前年度の10大学（北海道大学、東北大学、新潟大学、金沢大学、大阪大学、広島大学、熊本大学、名古屋大学、信州大学、琉球大学）に高知大学が加わり、11大学となった。また講座数は、前年度よりテレビが1講座、ラジオが1講座増えて、テレビ講座11、ラジオ講座8の計19講座となった。新設された高知大学の講座は、「地域の複数の大学（学部）等が共同して企画・実施し、相互に授業への活用を図ること等の調査研究」を主たる目的とした「大学群分」の講座（四国地区）として実施されたもので、放送は高知、愛媛の両県で、またスクーリングは高知大学及び愛媛大学で開かれた。

各大学における実施講座名及びアンケートの回収率等は、表1のとおりであ

表 1. アンケートの回収数および回収率  
 ((T)テレビ講座 (R)ラジオ講座)

大学名	講 座 名	回収数	受講生数	回収率(%)
北海道大学	情報化社会を生きる－経済とくらし－(T)	234	589	39.7
	近代ロシアの歴史と文学 (R)	219	529	41.4
東北大学	人と国家と社会と			
	－宮城経済近代化のダイナミクス－ (T)	92	145	63.4
	現代人と食 (R)	143	217	65.9
新潟大学	からだの部分を取り換える			
	－生命の維持と機能回復を求めて－ (T)	129	190	67.9
	日本の古代音楽 (R)	97	146	66.4
金沢大学	異なる文化の交流と衝突			
	－文化人類学の視点から－ (T)	25	55	45.5
	人間関係の心理学 (R)	46	147	31.3
名古屋大学	水－人間とのかかわり－ (T)	96	240	40.0
	健康づくりの科学 (R)	101	260	38.8
大阪大学	見る－先端科学技術の“目”－ (T)	144	610	23.6
	私たちの生活の中での薬 (R)	135	453	29.8
広島大学	広島を振り返る			
	家庭とは何であったか (T)	132	182	72.5
	－19世紀の社会・人間・文化－ (R)	107	153	69.9
熊本大学	“実年”の健康 (T)	217	721	30.1
	熊本一人とその時代－ (R)	184	525	35.0
信州大学 *	生物工学－バイオテクノロジーの展開－(T)	331	1,675	19.8
琉球大学	沖縄のサンゴ礁 (T)	71	176	40.3
高知大学	海をさぐる－その開発へのアプローチ－(T)	288	500	57.6
	全 体	2,791	7,513	37.1
	昭和60年度	2,705	6,352	42.6
	昭和59年度	1,970	3,864	51.0
	昭和58年度	1,798	3,620	49.7

\*信州大学では、第2回のスクーリングの参加者のみを対象として調査が実施された。

る。調査・回収の方法は、実施する大学により多少の差異があったようであるが、基本的には各大学ごとに取りまとめる郵送法によっている。アンケートへ

の回答者数は2,791人で前年度の2,705人とほぼ同数であったが、回収率は前年度の42.6%を幾分下回って37.1%となった。

表1を見ると、実施大学によって回収率に大きなバラツキのあることがわかる。最も高い広島大学（「広島経済を考える」）では72.5%、特殊事情の信州大学を除けば最も低率の大阪大学（「見る ― 先端科学技術の“目” ―」）では23.6%と、そのレンジはほぼ50%にも達している。こうした違いはアンケート実施・回収方法の差異や地域差その他の諸事情によるものであろうが、注意しなければならないのは、回収率が一様でないことによりサンプルにバイアスがかかっている可能性があるということである。そうした調査対象集団の特性は、結果の分析にあたって常に念頭に置いておく必要があるであろう。

## 2. 受講生の属性

回答者全体の性別比率は、男性60.6%、女性39.4%で、男性の比率が高くなっている。これは過去最高の男性比率だった昨年度の63.3%に次ぐ値で、昭和58、59年度の45.9%、44.3%を大きく上回っている。この原因としては、昨年度同様、テーマ構成が自然科学的、実学的なものにややかたよっていたことがあげられよう。表2によって講座ごとの男女比率を見ると、健康・医療関係以外の自然科学系や経済関係のテーマに男性が多いことに気付く。なお、母集団、つまり講座に登録した受講生全体の性別構成は、男性が61.8%、女性が38.2%であった。少なくとも性別構成に関してはサンプルと母集団との間に有意な偏差はないといえる。

年齢構成を見よう。長年続いていた年長者の増加傾向は昨年度でストップしたが、今年度は再びわずかながら年長者が増えている。これは、例えば「“実年”の健康」に見られるように、特に年長者を意識したテーマが選ばれたり、健康に関するテーマを取り上げる大学が多かったことも影響しているかもしれない。しかし東北大学の「人と国家と社会と」や金沢大学の「異なる文化の交流と衝突」で高齢者が多いことなど、中高年の学習者の増加の背景には「実年向け」テーマ構成というだけでは説明しきれないものがあるように思われる。

表2. 回答者の性別および年齢構成 (%)

大学	講座名	性別		年 齢						
		男	女	~20	21~ 29	30~ 39	40~ 49	50~ 59	60~ 69	70~
北大	情報化社会を生きる	72.6	27.4	0.0	7.3	26.9	21.8	23.5	14.5	6.0
	近代ロシア歴史と文学	42.0	58.0	2.3	16.9	18.3	19.6	25.1	13.2	4.6
東北	人と国家と社会と	66.3	33.7	0.0	6.5	6.5	13.0	16.3	41.3	16.3
	現代人と食	28.7	71.3	0.0	5.6	19.6	29.4	18.9	21.7	4.9
新潟	体の部分を取換える	38.3	61.7	2.3	14.8	15.6	25.8	28.1	11.7	1.6
	日本の古代音楽	46.4	53.6	1.0	9.3	22.7	15.5	29.9	20.6	1.0
金沢	異文化の交流と衝突	45.8	54.2	0.0	4.0	8.0	28.0	20.0	28.0	12.0
	人間関係の心理学	19.6	80.4	0.0	10.9	28.3	28.3	13.0	17.4	2.2
名大	水	76.0	24.0	0.0	10.4	14.6	32.3	21.9	14.6	6.3
	健康づくりの科学	68.3	31.7	1.0	4.0	17.8	23.8	19.8	18.8	14.9
阪大	見る	81.9	18.1	0.0	9.3	21.5	19.4	19.4	21.5	9.0
	生活の中での薬	60.0	40.0	0.0	9.6	18.5	18.5	23.7	20.0	9.6
広島	広島の経済を考える	77.3	22.7	0.0	10.6	19.7	20.5	22.7	15.9	10.6
	家庭は何であったか	41.1	58.9	0.0	7.5	21.5	27.1	20.6	13.1	10.3
熊本	“実年”の健康	37.3	62.7	0.9	4.7	6.1	9.8	26.2	36.0	16.4
	熊 本	50.0	50.0	0.0	0.5	7.7	15.9	24.7	38.5	12.6
信大	生物工学	82.8	17.2	0.9	50.5	26.3	10.9	7.6	3.0	0.9
琉大	沖縄のサンゴ礁	80.3	19.7	0.0	45.1	28.2	23.9	1.4	1.4	0.0
高知	海をさぐる	76.0	24.0	3.1	18.8	30.6	15.6	18.1	9.7	4.2
	全 体	60.6	39.4	0.9	15.4	19.9	19.0	20.1	17.7	7.1
	昭和60年度	63.3	36.7	2.4	19.2	20.3	19.0	17.9	14.9	6.2
	昭和59年度	44.3	55.7	1.1	13.3	18.3	23.3	21.2	15.2	7.6
	昭和58年度	45.9	54.1	0.6	12.7	21.0	26.0	18.0	14.7	7.1

テーマに拘わりなく実施大学がどこであるかによって年齢構成がある程度定まってくるという傾向が見られることから、実施校の広報方法、募集形態等の差異が年齢構成の差を生んでいるという見方もできる。一方、若年者が圧倒的に多い講座が少数ながら存在することも、指摘しておかなければならない。30歳未満が過半数を占める信州大学の「生物工学」、それに次ぐ琉球大学の「沖縄のサンゴ礁」などがそれである。

次に受講生の学歴構成について見よう。全体的には大学卒業者の比率が最も高い。昭和58年からのトレンドを見ると、これまで最も大きな部分を占めていた高校卒業者の層を今回初めて超えたことになる。特に一部の講座、例えば大阪大学の「見る」「私たちの生活の中での薬」あるいは広島大学の「広島経済を考える」では、大卒者が過半数を越えている。それ以外にも40%前後の講座がかなりあり、こうしたところに“Education more education”の

表3. 受講生の学歴構成

(%)

大学名	講座名	小 中 卒	高 校 卒	短 大 卒	大 学 卒	専 各 卒	短 大 在	大 学 在	院 在	専 各 在	そ の 他
北大	情報化社会を生きる	4.3	45.9	10.3	28.3	5.6	1.3	1.3	0.4	0.0	2.6
	近代ロシアの歴史と文学	6.4	41.6	14.6	22.8	5.5	0.0	4.1	0.5	0.9	3.7
東北	人と国家と社会と	7.6	37.0	10.9	38.0	2.2	1.1	2.2	0.0	0.0	1.1
	現代人と食	3.5	39.9	16.1	30.1	4.2	2.1	2.8	0.0	0.0	1.4
新潟	からだの部分を取り換える	9.4	40.6	15.6	21.9	10.2	0.0	0.8	0.0	1.6	0.0
	日本の古代音楽	8.2	35.1	15.5	34.0	3.1	0.0	3.1	1.0	0.0	0.0
金沢	異なる文化の交流と衝突	4.0	40.0	16.0	36.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	人間関係の心理学	6.5	45.7	30.4	13.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3
名大	水	4.2	28.1	9.4	45.8	5.2	2.1	2.1	0.0	0.0	3.1
	健康づくりの科学	8.2	49.0	12.2	26.5	2.0	0.0	1.0	0.0	0.0	1.0
大阪	見る	2.8	27.1	6.3	58.3	2.8	0.0	0.7	0.0	0.0	2.1
	私たちの生活の中での薬	3.0	22.2	9.6	57.0	4.4	0.0	1.5	0.0	0.0	2.2
広島	広島経済を考える	3.0	31.1	9.1	50.8	1.5	0.0	1.5	0.8	0.0	2.3
	家庭とは何であったか	1.0	39.4	14.4	34.6	6.7	1.9	0.0	0.0	1.0	1.0
熊本	“実年”の健康	20.3	37.7	10.8	17.5	7.1	1.4	1.9	0.0	1.4	1.9
	熊 本	8.5	46.9	11.3	27.1	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3
信大	生物工学	1.5	15.2	6.1	47.3	3.9	0.3	16.7	7.0	0.3	1.8
琉大	沖縄のサンゴ礁	0.0	26.8	11.3	45.1	0.0	0.0	12.7	0.0	0.0	4.2
高知	海をさぐる	3.2	34.7	5.6	38.9	4.2	0.0	8.8	0.7	0.4	3.5
	全 体	5.7	34.8	10.8	35.7	4.4	0.6	4.4	1.0	0.4	2.2
	昭和60年度	5.7	41.6	13.6	33.5	—	0.7	2.0	0.5	0.7	1.6
	昭和59年度	4.9	42.1	16.3	30.1	—	1.2	2.0	0.2	1.2	1.9
	昭和58年度	4.8	39.8	14.9	35.2	—	0.7	1.8	0.2	0.8	1.8

傾向を指摘することもできよう。また信州大学と琉球大学の2講座に限って、かなりの数の大学・大学院在学者が受講していることが見て取れるが、今後大学公開講座の新しい可能性を示唆する傾向として注目に値する。

受講生の職業について見よう。全体の傾向では、今回も昨年ほどではないが、「事務・技術系の職業」の一般の会社員、公務員の比率が34.9%と高いのが目立つ。（昨年度は41.2%）「無職・その他」が例年より幾分高いのは、高齢

表4. 受講生の職業構成

大学	講座名	(%)									
		農林 漁業	事務 技術	労務	管理 自由	教育 研究	経営 商店	主婦	学生	無職 その他	
北大	情報化社会を生きる	2.1	49.1	2.6	6.8	4.7	3.0	15.0	0.9	15.8	
	近代ロシアの歴史と文学	2.3	32.4	2.3	3.2	5.0	2.3	27.9	6.4	18.3	
東北	人と国家と社会と	3.3	28.3	1.1	4.3	4.3	3.3	19.6	0.0	35.9	
	現代人と食	1.4	27.3	1.4	1.4	4.9	2.1	41.3	1.4	18.9	
新潟	からだの部分を取り換える	1.6	35.9	0.0	3.1	14.8	4.7	24.2	2.3	13.3	
	日本の古代音楽	0.0	23.7	1.0	1.0	20.6	4.1	25.8	4.1	19.6	
金沢	異なる文化の交流と衝突	4.0	16.0	4.0	0.0	16.0	4.0	36.0	0.0	20.0	
	人間関係の心理学	0.0	39.1	2.2	2.2	6.5	4.3	28.3	0.0	17.4	
名大	水	1.0	47.9	1.0	3.1	6.3	5.2	18.8	2.1	14.6	
	健康づくりの科学	1.0	32.0	1.0	3.1	2.1	6.2	21.6	0.0	33.0	
阪大	見る	0.7	50.0	0.7	9.7	6.3	6.9	7.6	0.7	17.4	
	私たちの生活の中での薬	0.7	39.3	1.5	8.1	3.7	5.9	19.3	0.7	20.7	
広島	広島の経済を考える	6.9	40.8	1.5	9.2	6.9	4.6	13.1	1.5	15.4	
	家庭とは何であったか	7.5	32.7	0.0	4.7	11.2	1.9	27.1	0.9	14.0	
熊本	“実年”の健康	12.7	11.8	0.0	2.8	4.7	0.9	27.4	5.2	34.4	
	熊本	4.5	12.8	0.6	5.0	6.7	0.6	33.5	0.0	36.3	
信大	生物工学	3.4	44.4	1.9	4.3	12.1	2.5	3.1	24.2	4.0	
琉大	沖縄のサンゴ礁	4.2	46.5	1.4	1.4	15.5	5.6	5.6	15.5	4.2	
高知	海をさぐる	9.5	38.2	2.5	6.4	11.3	2.8	7.4	9.2	12.7	
	全	4.2	34.9	1.4	4.7	8.2	3.3	19.1	5.7	18.5	
	昭和60年度	2.4	41.2	2.5	3.9	7.7	3.4	20.4	3.9	14.7	
	昭和59年度	1.5	28.9	1.3	4.9	8.5	3.7	31.6	3.5	16.2	
	昭和58年度	2.3	29.6	1.0	6.0	9.3	3.9	30.5	2.4	15.1	

者が多かったことと関連していると思われる。「主婦・家事手伝い」の比率は  
 昨年の 20.4% からさらに低下し、19.1% になっている。各講座ごとに見ると、  
 全体の傾向と同様に事務・技術職の比率の高い講座（阪大の「見る」、名大の  
 「水」等）、教育・研究職の比率が比較的高い講座（新潟大の「日本の古代音  
 楽」、金沢大の「異なる文化の交流と衝突」等）、主婦層が多い講座（東北大  
 の「現代人と食」、金沢大「異なる……」等）そして無職その他の多い講座  
 （熊本大の 2 講座、東北大の「人と国家と社会と」等）といった講座ごとの特  
 徴がかなり鮮明に出ていることがわかる。

### 3. 講座を知った媒体

講座を知った媒体としては、「大学の案内（ポスター、パンフレット）」が  
 例年どおり上位を占めている。ただし個別に見ると、大学によっては他の媒体  
 の比率が高い場合がある。特に新しく公開講座を開設した大学では、テレビ（高

表 5. 講座を知った媒体 (%)

大学名	テレビ	ラジオ	新聞	市町村 広報	大学の 案内	人の話	その他
北海道大学	7.9	1.1	14.6	29.4	40.6	4.6	1.8
東北大学	14.0	1.3	12.3	14.0	53.2	2.6	2.6
新潟大学	8.8	0.4	14.2	21.7	44.7	5.8	4.4
金沢大学	1.4	7.0	11.3	5.6	47.9	23.9	2.8
名古屋大学	6.2	2.6	39.9	5.7	30.1	4.1	11.4
大阪大学	2.5	1.8	7.5	3.2	62.7	6.5	15.8
広島大学	4.2	3.8	8.8	17.2	61.1	2.9	2.1
熊本大学	8.3	1.1	2.5	44.0	32.7	6.4	5.0
信州大学	20.6	0.6	8.1	3.1	42.7	16.2	8.7
琉球大学	33.8	7.0	38.0	0.0	5.6	14.1	1.4
高知大学	46.3	0.0	15.1	8.4	20.7	6.7	2.8
全 体	13.6	1.6	13.1	17.3	41.7	7.1	5.6
昭和 60 年度	12.7	2.6	14.7	12.2	38.5	10.6	8.8
昭和 59 年度	13.4	2.3	15.3	12.1	47.0	6.7	3.2
昭和 58 年度	9.2	2.9	24.0	11.6	40.9	7.3	4.1

知大学、琉球大学)や新聞(名古屋大学、琉球大学)といったマスメディアが大きな役割を果たしていることがわかる。さらに、熊本大学のように市町村広報の効果が大きいいところ、大阪大学、広島大学のように大学が直接配布する案内の類に大きく依存しているところ、また金沢大学のように口コミが効果を持つところなど、各大学の公開講座に関する歴史、立地条件等により様々な形態が見られる。

表 6. 受講した動機

大学	講 座 名	(%)					
		地元教 授魅力	家庭で 学習可	教養を 高める	テーマに 関 心	以前も 受 講	その他
北大	情報化社会を生きる	7.7	9.0	23.5	42.3	16.7	0.9
	近代ロシアの歴史と文学	9.1	10.5	24.2	42.0	13.2	0.9
東北	人と国家と社会と	14.1	14.1	26.1	28.3	15.2	2.2
	現代人と食	7.0	11.2	13.3	52.4	14.0	2.1
新潟	からだの部分を取り換える	3.9	10.1	19.4	46.5	16.3	3.9
	日本の古代音楽	9.3	6.2	18.6	47.4	16.5	2.1
金沢	異なる文化の交流と衝突	8.0	16.0	16.0	40.0	16.0	4.0
	人間関係の心理学	6.5	6.5	8.7	63.0	8.7	6.5
名大	水	10.4	4.2	21.9	43.8	19.8	0.0
	健康づくりの科学	8.2	5.1	7.1	69.4	5.1	5.1
阪大	見る	2.1	9.7	36.8	29.9	18.8	2.8
	私たちの生活の中での薬	3.7	10.4	23.0	44.4	15.6	3.0
広島	広島の経済を考える	9.8	6.1	25.8	49.2	8.3	0.8
	家庭とは何であったか	9.3	15.0	29.9	31.8	14.0	0.0
熊本	“実年”の健康	6.9	26.6	15.3	38.9	7.4	4.9
	熊本	9.1	16.4	23.6	33.9	14.5	2.4
信大	生物工学	4.2	1.5	22.1	60.9	2.1	9.1
琉大	沖縄のサンゴ礁	0.0	5.7	14.3	58.6	21.4	0.0
高知	海をさぐる	6.3	9.2	18.0	61.3	0.4	4.9
	全 体	6.9	10.0	21.2	47.3	11.2	3.3
	昭和 60 年度	7.9	11.2	25.3	41.9	9.9	3.8
	昭和 59 年度	7.2	12.0	19.2	49.6	10.3	1.7
	昭和 58 年度	7.3	15.5	24.4	41.5	8.2	3.1



#### 4. 受講の動機とこれまでの放送利用の学習経験

大学公開講座を受講した最も強い動機として回答者があげているのは、表6を全体として見ると、例年通り「テーマに関心があったから」である。これはこの種の学習者として極めて当然の結果である。しかし、それ以外の動機について個々の講座ごとに少し検討してみると、いくつかの特徴的な点を見出しうる。例えば、東北大の「人と国家と社会と」では他の講座と比較して教授の魅力を描き出す受講生が多い。また、熊本の「“実年”の健康」では、家庭にい

表7. 大学公開講座への登録回数（今回も含む）

大学	過去に登録した講座名	登録回数 (%)					
		1回	2回	3回	4回	5～9回	10回以上
北大	情報化社会を生きる	45.3	23.5	10.7	9.4	11.1	0.0
	近代ロシアの歴史と文学	47.5	20.5	8.7	11.9	11.4	0.0
東北	人と国家と社会と	16.3	18.5	10.9	9.8	34.8	9.8
	現代人と食	28.0	24.5	9.8	7.7	21.7	8.4
新潟	からだの部分を取り換える	42.6	29.5	18.6	5.4	3.1	0.8
	日本の古代音楽	40.2	30.9	15.5	9.3	4.1	0.0
金沢	異なる文化の交流と衝突	40.0	24.0	8.0	4.0	20.0	4.0
	人間関係の心理学	43.5	26.1	13.0	4.3	10.9	2.2
名大	水	58.3	39.6	1.1	1.1	0.0	0.0
	健康づくりの科学	74.2	10.3	15.5	0.0	0.0	0.0
大阪	見る	44.0	14.9	12.1	7.8	17.0	4.3
	私たちの生活の中での薬	34.6	13.5	15.0	9.8	22.6	4.5
広島	広島の経済を考える	40.5	12.2	10.7	7.6	16.8	12.2
	家庭とは何であったか	22.6	23.6	16.0	10.4	15.1	12.3
熊本	“実年”の健康	64.3	17.4	2.9	6.3	6.3	2.9
	熊本	43.2	18.9	11.9	8.9	14.8	2.4
信大	生物工学	87.0	12.1	0.6	0.3	0.0	0.0
琉大	沖縄のサンゴ礁	94.4	4.2	0.0	1.4	0.0	0.0
高知	海をさぐる	97.5	1.8	0.4	0.0	0.4	0.0
	全 体	56.0	17.5	8.3	5.9	9.6	2.7
	昭和60年度	59.4	15.6	8.8	5.0	11.2	

ながらにして受講できる点が多く受講の理由にあげられている。教養指向が最も強かったのは、阪大の「見る」である。さらに、以前の受講経験からの継続性が強調されているのは琉球大学の「沖縄のサンゴ礁」であった。

これまでの大学公開講座の受講経験についての質問に対しては、表7のような回答を得た。全体では今回1回だけの登録者が56.0%である。ただしこれは歴史の新しい大学・大学群を含めた算術平均であり、当然のことながら東北大、大阪大、金沢大、広島大といった講座開設の歴史の長い大学では登録回数の多い者が多数存在する。

また、今回の受講以前に正式な登録をせずに大学公開講座を視聴したことがあるか、の問に対しては、表8のように全体として59.4%の受講生が「ない」と答えているが、このことは逆にいえば、約4割の受講生は正式に登録をせずにテレビ・ラジオの視聴だけ行なったということを意味している。大学公開講座受講者層の自主的学習活動に対する関心の深さを一面で物語っている結果といえよう。

表8. 正式な登録をせずに番組を視聴した経験 (%)

開 講 年 度	1～2回	3～4回	5回以上	部分視聴	0 回
昭和61年度	12.9	4.5	3.3	19.8	59.4
昭和60年度	15.6	4.1	3.3	—	76.9

受講前の予備知識の有無についての問に対しては、ほぼ5割の者が「まったくなかった」もしくは「あまりなかった」という否定的な回答を寄せている。残りの5割の受講者は、その程度に幅はあるものの、とにかく「予備知識はあった」と回答している。表9を講座別に見てみると、テーマによって受講者の予備知識の量に大きな違いがあることがわかる。例えば、金沢大の「異なる文化の……」や新潟大の「日本の古代音楽」では予備知識を持っていた受講者の比率が極めて低いのに対し、琉球大の「沖縄の……」や大阪大の「私たちの生活の……」では反対に予備知識を持たない受講者の方が少数者になっている。

表 9. 受講前の予備知識

(%)

大学	講座名	全く無し	余り無し	やや有り	かなり有	非常に有
北大	情報化社会を生きる	20.9	27.4	40.6	9.8	1.3
	近代ロシアの歴史と文学	22.4	42.5	30.6	3.2	1.4
東北	人と国家と社会と	19.6	26.1	42.4	12.0	0.0
	現代人と食	15.4	26.6	42.7	11.9	3.5
新大	からだの部分を取り換える	26.0	29.9	33.9	8.7	1.6
	日本の古代音楽	42.3	23.7	25.8	6.2	2.1
金大	異なる文化の交流と衝突	56.0	24.0	16.0	4.0	0.0
	人間関係の心理学	20.0	20.0	51.1	6.7	2.2
名大	水	16.8	33.7	41.1	6.3	2.1
	健康づくりの科学	12.9	32.7	41.6	5.9	6.9
阪大	見る	19.4	38.2	38.2	4.2	0.0
	私たちの生活の中での薬	18.0	24.8	29.3	21.8	6.0
広大	広島を経済を考える	22.0	36.4	31.8	7.6	2.3
	家庭とは何であったか	29.9	40.2	22.4	5.6	1.9
熊本	“実年”の健康	11.1	33.3	39.6	14.0	1.9
	熊本	15.6	36.4	40.5	6.4	1.2
信大	生物工学	23.6	29.1	38.5	7.0	1.8
琉大	沖縄のサンゴ礁	7.0	35.2	54.9	2.8	0.0
高大	海をさぐる	17.8	39.2	32.2	8.7	2.1
	全 体	20.3	32.7	36.5	8.4	2.0
	昭和60年度	17.5	33.9	38.7	9.0	1.0
	昭和59年度	18.7	31.2	36.2	12.0	1.8
	昭和58年度	19.3	31.0	36.4	11.4	1.0

表 10. 最終学校卒業後の継続学習の経験

(%)

学習の方法 受講年度	放送公 開講座	放送教 育番組	大学公 開講座	社会教 育機関	カルチャー・ センター等	自主学習 グループ	特に経 験なし	その他
昭和61年度	7.6	25.2	5.9	14.6	3.5	9.2	29.1	4.9
昭和60年度	8.5	20.9	5.8	13.7	3.4	8.7	32.4	6.7
昭和59年度	15.6	14.9	13.8	20.4	7.1	9.4	11.6	7.1
昭和58年度	13.1	19.8	12.6	24.1	7.2	10.1	—	13.1

各講座の受講者に対し、継続学習機会として最もよく利用しているものを尋ねたのがアンケートの問12である。表10はその結果を示したものである。全体に「特に継続的に学習したことはない」という回答が最も多かった。これは昨年度の傾向と同様である。この結果は、放送による大学公開講座が、新たに継続的な学習に取り組む際の大きなきっかけとなっていることを示唆する、重要なデータである。その他では、既存の教育放送番組による学習の比率が年々上昇していることが注目される。放送利用の大学公開講座は、全体的に見ると、まだやはりそれほど多くの学習者をひきつけているとは言い難い。

## 5. 番組の視聴と視聴時の学習行動

表11. 番組の視聴回数（全13回中）（講座別平均値\*）

	講 座 名	(メディア)	回 数
北 大	情報化社会を生きる	(T)	9.2
	近代ロシアの歴史と文学	(R)	9.2
東 北	人と国家と社会と	(T)	8.4
	現代人と食	(R)	7.8
新 潟	からだの部分を取り換える	(T)	9.1
	日本の古代音楽	(R)	9.4
金 沢	異なる文化の交流と衝突	(T)	8.1
	人間関係の心理学	(R)	8.3
名 大	水	(T)	10.3
	健康づくりの科学	(R)	11.1
阪 大	見る	(T)	8.6
	私たちの生活の中での薬	(R)	7.9
広 大	広島を経済を考える	(T)	7.9
	家庭とは何であったか	(R)	7.2
熊 本	“実年”の健康	(T)	7.2
	熊本	(R)	8.1
信 大	生物工学	(T)	6.7
琉 大	沖縄のサンゴ礁	(T)	10.1
高 大	海をさぐる	(T)	7.9
	昭和61年度（今回）		8.3
全 体	昭和60年度		8.6
	昭和59年度		8.9
	昭和58年度		8.8

\*カテゴリーごとに値域の平均値をとり、それを代表値として平均回数を推計した。

表11を見ると、視聴状況は昨年度までとほとんど同じ傾向を示しており、番組13本のシリーズのうち、毎年度平均8回強が視聴されていることがわかる。ただし、視聴の平均回数は漸減してきている。今後の動向次第では重大な問題となるかもしれない。また、講座ごとの平均視聴回数では、名古屋大の2講座がそれぞれ11.1, 10.3と飛び抜けて高い値となっているのが注目される。逆に信州大の「生物工学」は、6.7と最も低い値を示している。

次にこの平均視聴回数を、受講者の属性グループ別に見てみることにしよう。ここでは有意な差のあったメディア別、年齢別、そして職業別の値を表12に示す。まず、メディア別では、それほど大きな差ではないが、ラジオの方がやや平均視聴回数が多いことがわかる。年齢別では、非常にはっきりとした傾向があらわれている。若年者は視聴回数が少ないのだが、年齢が上るに従って視聴の回数が直線的に増加し、そのレンジは2.4回とかなり大きい。それと本質的には同じ原因によると思われるが、職業別に見た場合、最多が無職（その他を含む）で9.3回、最少が学生で5.2回、その差は実に4.1回である。

表12. 番組の視聴回数(全13回中)(基本属性グループ別平均値\*)

メディア別	年 齢						職 業								
	~29	~39	~49	~59	~69	70~	農・労	事・技	管・自	教・研	主婦	学生	無職		
テレビラジオ	8.2	8.6	6.9	8.0	8.6	8.7	9.0	9.3	8.1	8.2	8.6	8.1	8.6	5.2	9.3

\*カテゴリーごとに値域の平均値をとり、それを代表値として平均回数を推計した。

表13-1. 番組視聴の際の学習行動(1~5の尺度の基本属性グループ別平均値\*)

設 問	属 性	全受	メディア別				年 齢								
			講者	テレビ	ラジオ	性 別	男	女	~29	~39	~49	~59	~69	70~	
14	選択肢等														
	(a)テキストの予習	3.04	2.95	3.20	3.03	3.07	2.45	2.80	3.14	3.18	3.45	3.69			
	(b)視聴中ノートとる	2.74	2.62	2.95	2.55	3.06	2.31	2.45	2.89	2.81	3.08	3.34			
	(c)録音した	2.13	1.76	2.69	2.04	2.27	1.94	2.27	2.27	2.26	1.96	1.78			
	(d)録画した-TVのみ	2.56	2.57	-	2.69	2.22	2.47	2.96	2.70	2.67	1.98	1.67			

\*値が5に近いほどそのグループはそうした行動を多くとり、1に近いほどそれをしなかった、ということである。

表 13-2. 番組視聴の際の学習行動（1～5の尺度の基  
の基本属性グループ別平均値\*）

設 問	属 性	職	業	学	歴							
	選択肢等	農・労	事・技	管・自	教・研	主婦	学生	無職	中卒	高卒	短大	大卒
(a)	テキストの予習	3.13	2.91	3.02	3.01	3.18	2.05	3.50	3.60	3.18	3.07	3.00
(b)	視聴中ノートとる	2.66	2.55	2.74	2.58	3.25	1.81	3.07	3.17	2.90	2.97	2.62
(c)	録音した	2.20	2.13	2.20	2.30	2.35	1.58	2.02	2.29	2.24	2.26	2.08
(d)	録画した-TVのみ	2.69	2.87	2.90	3.06	2.18	1.79	1.94	2.13	2.59	2.57	2.76

\*値が5に近いほどそのグループはそうした行動を多くとり、1に近いほどそれをしなかった、ということである。

次に、番組視聴にあたって学習者がとる学習行動について見ることにしよう。表13-1および13-2は、予習、録音等をどの程度しているかについて回答結果から尺度を導き出し、その値を属性グループごとに比較したものである。テキストの予習について見ると、メディアではラジオ、年齢別では中高年齢者、職業別では無職、そして学歴別では中卒（旧小・高小卒含む）の値が高いことが見て取れる。こうした傾向は視聴中のノートについても同様に指摘することができる。ノートに関しては、それに加えて男女差も見られ、女性の方がよりしっかりとノートをとるという結果が出ている。番組の録音では、テレビの視聴者に対する回答上の配慮が足りず、若干混乱が見られた。今後はラジオのみに限定して尋ねるべきであろう。番組の録音に関しては、女性、30～59歳の層、主婦層といったグループが高い値を示している。また、録画に関しては対照的に、男性、30～39歳の比較的若い層、教育・研究職といったグループが高得点であった。

こうした番組視聴に際しての学習行動の差異を、われわれは「熱心—不熱心」といった単純な軸でとらえがちである。しかし放送による継続学習という状況のもとでは、むしろ「種々の属性を持った学習者には多様な学習スタイルがあり得る」といった観点からの検討が必要となってくるであろう。

## 6. 受講者の側からの講座評価

受講生は大学公開講座を修了してどのような感想を持っているだろうか。ま

表 14. 受講後の満足度\*と理解感\*\* (講座別, 年齢層別\*\*\*)

大学	講座名	満足度			理解感		
		若年層	中年層	高年層	若年層	中年層	高年層
北大	情報化社会を生きる	58.8	69.8	79.2	35.0	38.7	29.2
	近代ロシアの歴史と文学	60.5	72.4	84.6	30.9	25.5	35.9
東北	人と国家と社会と	33.3	53.8	75.5	25.0	53.8	60.4
	現代人と食	54.3	58.2	60.5	34.3	43.9	36.8
新潟	からだの部分を取り換える	66.7	80.9	76.5	31.7	36.2	18.8
	日本の古代音楽	53.1	61.4	66.7	25.0	27.3	33.3
金沢	異なる文化の交流と衝突	50.0	50.0	80.0	33.3	50.0	30.0
	人間関係の心理学	41.2	66.7	77.8	23.5	55.6	33.3
名大	水	75.0	66.7	89.5	37.5	43.1	73.7
	健康づくりの科学	65.2	75.0	87.9	56.5	52.3	56.3
阪大	見る	18.6	66.7	65.9	11.6	20.4	18.2
	私たちの生活の中での薬	61.1	73.7	71.8	58.3	33.3	32.5
広島	広島の経済を考える	63.2	75.0	80.0	50.0	48.2	40.0
	家庭とは何であったか	42.9	42.0	56.0	13.3	22.4	36.0
熊本	“実年”の健康	54.2	62.0	73.8	37.5	31.0	29.0
	熊本	53.3	70.0	83.3	14.3	30.6	39.6
信大	生物工学	33.5	53.3	53.8	11.7	10.0	15.4
琉大	沖縄のサンゴ礁	76.9	88.9	100.0	28.8	50.0	—
高知	海をさぐる	42.6	55.7	66.7	20.9	24.0	22.5
全 体 (昭和 61 年度)		48.6	65.7	74.9	25.5	33.5	35.8

\*満足度……問 16 の選択肢のうち、「期待していた以上で大変満足した」と「期待どおりで満足した」の 2 者のパーセンテージを合わせたもの。

\*\*理解感……問 17 の選択肢のうち、「大変よく理解できた」と「よく理解できた」の 2 者のパーセンテージを合わせたもの。

\*\*\*年齢層の括り方は次のとおり。若年層…… 40 歳未満, 中年層…… 60 歳未満, 高年層…… 60 歳以上。

た講座の内容をどの程度理解しているだろうか。今回のアンケートでは、それを「満足度」と「理解感」という形で尋ねている。その結果を見ると、「まあまあ満足」まで含めて全受講生の 97.6 % が満足の意を表明しており、全体としては概ね満足していることがわかる。理解感についても、「ほぼ理解した」

まで含めて全体の87.0%の受講生が理解できたと回答している。しかし、これらの指標の値は、どの講座あるいはどの属性グループでも一様というわけではない。特に講座別、年齢別に見た2つの指標には大きなバラツキが見られる。表14はそれを一覧表にして示したものである。

まず満足度を見よう。概して若年層で満足度が低く、高年齢化するほど高くなる、ということがいえそうである。特に東北大の「人と国家と社会と」や大阪大の「見る」でそうした傾向が著しい。しかし中には若年者の満足度もかなり高いものがある。例えば、琉球大の「沖縄のサンゴ礁」、名古屋大の「水」といった講座がそれである。

次に自分でどれだけ理解できたと思うか、という理解感を見てみよう。これは先の満足度と異なり、高年者ほど高い講座と若年者ほど高い講座、そして年齢に拘らず一定の値を示す講座とに別れる。高年者ほど理解感の強い講座は、やはり東北大の「人と……」や名古屋大の「水」、熊本大の「熊本」などである。それに対して若年者の方がよく理解した講座としては、大阪大の「私たちの……」や広島大の「広島経済……」があげられよう。その他の講座は、あまり年齢による偏差のない講座であるが、特に大阪大の「見る」と信州大の「生物工学」については、理解感の水準がともに10~20%と際立って低位であるのが注目される。

満足度と理解感という2つの指標を併せて検討してみると、全体的に、若年者はその2つの指標が相関しているのに対し、高年者の場合は必ずしもそうになっていないことが読み取れる。例えば、新潟大の「体の部分を取り換える」や北大の「情報化社会を生きる」に見られるように、高年者はたとえ十分な理解が得られなくとも高い満足感を表明している。一方若年者の場合は、これと異なり、十分な理解を得られることが満足的前提になっているように推察し得る。こうした点にも放送による公開講座のクライアントの多様性をはっきりと見ることができるのである。



## 7. 今後の継続学習への意欲と大学公開講座への希望

今後どのような継続学習機会を利用していくかについては、前出表10に掲げたものとはほぼ同じ選択肢による質問を設けた。回答に結果は表15のとおりである。例年どおり放送による大学公開講座が最多であるが、注目すべきは、その比率が年ごとに増加している点である。第2位のNHK等の放送教育番組も増加傾向にあることを考え併せると、継続教育における放送メディアへの学習者からの期待は今後ますます増大してくるものと判断してよいのではないだろうか。

表15. 今後継続したい学習形態

学習の方法 受講年度	学習形態							その他
	放送公 開講座	放送教 育番組	大学公 開講座	社会教 育機関	カルチャー・ センター等	自主学習 グループ	継続意 志なし	
昭和61年度	44.3	18.0	12.5	9.5	1.8	7.0	4.1	2.8
昭和60年度	43.6	16.8	12.6	8.7	2.6	7.4	4.1	4.4
昭和59年度	36.2	19.3	12.7	8.1	1.7	3.5	0.4	18.1
昭和58年度	32.9	12.7	13.8	8.4	2.8	5.0	—	20.1

講座の受講生がどのような学習方法の形態を望んでいるか、については、表16にその結果を示す。例年のように「放送番組+テキスト+スクーリング」の組合せが最も多くの回答者によって望まれている。加えてその比率は着実に増加している（61年度は42.2%）。それに対し、郵便による通信指導への期待は年々減少する傾向にある。また、相変わらず「試験」を忌避する傾向も強い。ここには掲載できなかったが、男女別に見ると、女性は男性に比べて試験と通信指導を嫌う度合いが強いという結果も出ている。

最後に、今後大学公開講座で取り上げて欲しい講座のタイプとしてあげられたものについて触れておこう。表17はそれに関する回答結果を、受講生の属性別に掲げたものである。受講生の希望は全体として教養講座（専門的な学問の内容をわかりやすく解説するような講座）と専門総合講座（特定の問題に対して色々な専門分野から総合的にアプローチするような講座）の2者に集まっている。この2つの選択肢だけで2/3に達する。専門基礎講座（専門

表 16. 望ましい学習方法

			(%)							
	講 座 名		1	2	3	4	5	6	7	8
北海	情報化社会を生きる	(T)	17.5	30.3	41.9	6.8	1.7	0.9	0.4	0.4
	近代ロシアの歴史と文学	(R)	15.1	34.9	43.1	5.0	0.9	0.9	0.0	0.0
東北	人と国家と社会と	(T)	9.9	33.0	49.5	4.4	1.1	2.2	0.0	0.0
	現代人と食	(R)	8.5	30.5	46.8	9.2	2.1	1.4	1.4	0.0
新潟	からだの部分を取り換える	(T)	11.0	29.1	38.6	17.3	1.6	0.8	1.6	0.0
	日本の古代音楽	(R)	10.3	32.0	38.1	17.5	2.1	0.0	0.0	0.0
金沢	異なる文化の交流と衝突	(T)	12.0	32.0	48.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	人間関係の心理学	(R)	15.2	26.1	50.0	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0
名古屋	水	(T)	11.7	23.4	57.4	4.3	2.1	1.1	0.0	0.0
	健康づくりの科学	(R)	6.1	23.2	60.6	9.1	1.0	0.0	0.0	0.0
大阪	見る	(T)	9.0	31.9	35.4	22.2	0.7	0.0	0.7	0.0
	私たちの生活の中での薬	(R)	8.3	20.3	46.6	23.3	0.8	0.8	0.0	0.0
広島	広島を経済を考える	(T)	15.4	29.2	35.4	13.8	1.5	2.3	1.5	0.8
	家庭とは何であったか	(R)	12.3	29.2	40.6	13.2	0.0	0.9	2.8	0.9
熊本	“実年”の健康	(T)	7.1	22.7	46.5	15.2	4.0	1.0	3.0	0.5
	熊本	(R)	10.8	27.8	45.5	11.9	1.7	1.7	0.6	0.0
信大	生物工学	(T)	18.2	32.4	36.1	7.9	2.1	0.6	2.1	0.6
琉大	沖縄のサンゴ礁	(T)	9.9	45.1	31.0	14.1	0.0	0.0	0.0	0.0
高大	海をさぐる	(T)	9.7	35.8	37.3	12.9	2.2	1.1	0.7	0.4
	全 体		12.0	30.2	42.2	11.7	1.6	0.9	1.0	0.3
	昭和 60 年度		15.7	32.1	38.4	10.0	1.7	0.8	0.9	0.4
	昭和 59 年度		12.8	35.4	37.8	11.5	1.2	0.6	0.7	0.1
	昭和 58 年度		14.5	33.3	35.1	13.6	1.3	1.0	1.0	0.2

1. 放送番組＋テキスト＋スクーリング＋通信指導＋試験
2. 放送番組＋テキスト＋スクーリング＋通信指導
3. 放送番組＋テキスト＋スクーリング
4. 放送番組＋テキスト
5. 放送番組＋スクーリング
6. テキスト＋スクーリング
7. 放送番組だけ
8. テキストだけ

的な学問を深く学習するために必要な基礎の修得を目的とした講座) がそれに次いでいるが、絶対量は多くない(17.4%)。

次にその2つのタイプの講座への希望に関し、受講生の属性によるクロス分析の結果を見よう。メディア別では、テレビ講座を受講した層は専門総合講座を、またラジオ講座を受講した層は教養講座をそれぞれ希望する度合いが強い。性別で見ると女性は男性に比べて専門総合講座を希望する程度が低い。また年齢別では、高年齢者ほど教養講座を指向し、若年者は専門総合講座、もしくは専門基礎講座を指向する度合いが強い。概して若年者は、「専門」という概念に好意的であるようだ。職業別では、無職、農林・労務、主婦といった層で教養講座への希望が強い。事務・技術職、学生、管理職・自由業などは専門的な学習への指向性が高いようである。最後に学歴別では、中卒、短大卒で教養講座を望む声が高く、大卒では専門的な内容を望む者が多くなっていることがわかる。

表17-1. 今後大学公開講座で取り上げたらよいと思う講座のタイプ(基本属性別：%)

設 問	属 性	全受 講者	メディア別		性 別		年 齢					
			テレビ	ラジオ	男	女	~29	~39	~49	~59	~69	70~
	教養講座	34.7	31.1	41.2	34.1	35.6	27.4	24.1	32.5	39.0	45.5	49.7
	専門総合講座	31.9	34.0	27.8	34.0	28.5	29.4	34.8	32.7	31.7	30.8	28.9
	専門基礎講座	17.4	18.6	15.2	17.7	16.9	25.3	21.3	19.4	14.8	9.5	8.6
19	専門講座	6.4	6.3	6.5	6.7	6.0	9.7	8.9	4.2	6.4	4.1	3.2
	実用的語学講座	5.3	5.5	5.3	3.8	7.8	4.8	7.0	6.3	3.8	5.6	3.7
	趣味・スポーツ講座	4.3	4.5	3.9	3.7	5.2	3.4	4.0	4.8	4.3	4.5	5.9

表17-2. 今後大学公開講座で取り上げたらよいと思う講座のタイプ(基本属性別：%)

設 問	属 性	職 業											
		農・労	事	技	管	自	教	研	主婦	学生	無職	中卒	高卒
	教養講座	39.6	29.5	30.5	32.4	38.9	31.8	42.4	41.0	39.7	40.2	27.7	
	専門総合講座	30.3	32.3	39.1	35.2	30.4	29.9	30.8	23.6	28.2	27.8	37.7	
	専門基礎講座	16.0	23.3	11.7	13.4	15.4	21.0	10.6	11.8	16.9	14.9	19.2	
19	専門講座	4.2	6.4	9.4	12.0	4.5	5.7	5.4	4.2	4.2	6.8	9.4	
	実用的語学講座	3.5	5.7	7.0	3.7	5.5	4.5	4.8	5.6	5.9	7.1	4.1	
	趣味・スポーツ講座	5.6	2.8	2.3	3.2	5.5	7.0	6.0	13.9	5.2	3.3	1.9	

昭和61年度放送利用の大学公開講座の受講生に対する  
アンケート調査事項（各大学共通分）

問1 あなたの性別についてお答えください。

1. 男
2. 女

問2 あなたの年齢は満何歳ですか。

1. 20歳未満
2. 20歳～29歳
3. 30歳～39歳
4. 40歳～49歳
5. 50歳～59歳
6. 60歳～69歳
7. 70歳以上

問3 あなたの学歴についてお答えください。

なお、現在在学中の方は、6～9の中から選んでください。

1. 小学校・新制中学・旧制高小卒
2. 新制高校・旧制中学卒
3. 短大・新制高専卒
4. 大学・旧制高専・旧制高校卒
5. 専修学校・各種学校卒
6. 短大・高専在学中
7. 大学在学中
8. 大学院在学中
9. 専修学校・各種学校在学中
10. その他

問4 あなたの職業についてお答えください。

1. 農林漁業（自営業・家庭従事者を含める）
2. 事務・技術系の職業（一般会社・一般公務員など）
3. 労務系の職業（工員・運転手 大工なども含める）
4. 大企業・官公庁の幹部職員及び自由業（開業医や弁護士なども含める）
5. 教育職・研究職（学校教員・大学教官・研究所々員など）
6. 中小企業経営者・商店主
7. 主婦・家事手伝い
8. 学 生
9. 無職・その他

問4 この講座を実施した機関はどこですか。

1. 北海道大学
2. 東北大学
3. 新潟大学
4. 金沢大学
5. 名古屋大学
6. 大阪大学
7. 広島大学
8. 熊本大学

9. 信州大学 10 琉球大学 11. 高知大学 (愛媛大学)

問6 受講した講座名は何でしたか。

1. 情報化社会に生きる ー経済とくらしー
2. 近代ロシアの歴史と文学
3. 人と国家と社会と ー宮城経済近代化のダイナミックスー
4. 現代人と食
5. からだの部分を取り換える ー生命の維持と機能回復を求めてー
6. 日本の古代音楽
7. 異なる文化の交流と衝突 ー文化人類学の視点からー
8. 人間関係の心理学
9. 水 ー人間とのかかわりー
10. 健康づくりの科学
11. 見る ー先端科学技術の“目”ー
12. 私たちの生活の中での薬
13. 広島を経済を考える
14. 家庭とは何であったか ー19世紀の社会・人間・文化ー
15. “実年”の健康
16. 熊本 ー人とその時代ー
17. 生物工学 ーバイオテクノロジーの展開ー
18. 沖縄のサンゴ礁
19. 海をさぐる ーその開発へのアプローチー

問7 この講座が実施されることを1番最初に何で知りましたか。

1. テレビ
2. ラジオ
3. 新聞
4. 市町村・公民館の広報等
5. 大学からの案内 (ポスター, パンフレット)
6. 人の話
7. その他 (具体的に記入してください: )

問8 この講座を受講しようとした主な動機は次のうちのどれでしたか。

1番強い理由を1つだけ選んでください。

1. 地元の大学教授の授業を受けてみたいから
2. 家庭で学習できるから
3. 教養を高めるために

4. テーマに関心があったから
5. 放送利用の大学公開講座を以前受講して、面白かったから
6. その他（具体的に記入してください： \_\_\_\_\_）

問9 放送利用の大学公開講座の受講生として正式に登録したのは、今回を含めて何講座ですか。

1. 1講座
2. 2講座
3. 3講座
4. 4講座
5. 5～9講座
6. 10講座以上

問10 受講生として正式には登録しないで、放送利用の大学公開講座の放送された番組を視聴したことが、これまでにどの程度ありますか。

1. 講座全体を通して視聴したことが1～2講座ある
2. 講座全体を通して視聴したことが3～4講座ある
3. 講座全体を通して視聴したことが5講座以上ある
4. 講座全体を通してではないが視聴したことはある
5. 視聴したことはない

問11 今回受講したこの講座の内容に関して、どのくらいの予備知識がありましたか。

1. 全くなかった
2. あまりなかった
3. ややあった
4. かなりあった
5. 非常にあった

問12 学校卒業後の継続的な学習についておたずねします。1番よく利用しているものを1つだけ選んでください。

なお、現在在学中の方は、学校での正規の授業や課外活動以外の学習についてお答えください。

1. 放送利用の大学公開講座
2. NHKや民間放送の番組（放送利用の大学公開講座を除く）
3. 大学の公開講座（放送利用の大学公開講座を除く）
4. 社会教育機関（公民館，図書館等）
5. カルチャー・センター等
6. 自主的学習グループへの参加

7. 特に継続的に学習したことはない

8. その他（具体的に記入してください： \_\_\_\_\_）

問13 あなたは、この講座の放送された番組を何回ぐらい視聴できましたか。およその回数をお答えください。

なお、ビデオやオーディオのテープで録画又は録音したものを視聴された場合も視聴できたものとみなします。

1. 2回以下しか視聴できなかった
2. 3～5回視聴できた
3. 6～8回視聴できた
4. 9～11回視聴できた
5. 12回以上視聴できた

問14 この講座の放送された番組を視聴する際に、あなたはどのようなことをなさいましたか。

	毎 回 し た	大 体 し た	少 し し た	ほ し と か ん ど た	全 く し な か っ た
(a) テキストの予習をした	5	4	3	2	1
(b) 視聴中ノートやメモをとった	5	4	3	2	1
(c) 録音を行った	5	4	3	2	1
(次はテレビによる講座を受講された方のみお答えください)					
(d) 録画を行った	5	4	3	2	1

問15 今後どのような手段で継続的な学習を続けようと思っていますか。最も利用したものを1つだけ選んでください。

1. 放送利用の大学公開講座
2. NHKや民間放送の番組（放送利用の大学公開講座を除く）
3. 大学の公開講座（放送利用の大学公開講座を除く）
4. 社会教育機関（公民館、図書館等）
5. カルチャー・センター等

- 6. 自主的学習グループへの参加
- 7. 継続的な学習を続けようとは考えていない
- 8. その他（具体的に記入してください： )

問16 この講座を受講してみて、あなたの感想はどうでしたか。1つだけ選んでください。

- 1. 期待していた以上で、大変満足した
- 2. 期待どおりで、満足した
- 3. 期待はずれの点もあるが受講してよかった
- 4. 期待はずれの点が多く、不満足だった
- 5. 全く期待はずれだった

問17 この講座を受講してみて、あなたは、講座の内容をどの程度理解できたと思いますか。1つだけ選んでください

- 1. 大変よく理解できた
- 2. よく理解できた
- 3. ほぼ理解できた
- 4. あまりよく理解できなかった
- 5. ほとんど理解できなかった

問18 受講してみて、放送利用の大学公開講座の学習方法はどちらでしたか。あなたが最も望ましいと思われる方法を1つだけ選んでください。

- 1. 放送番組＋テキスト＋スクーリング＋通信指導＋試験
- 2. 放送番組＋テキスト＋スクーリング＋通信指導
- 3. 放送番組＋テキスト＋スクーリング
- 4. 放送番組＋テキスト
- 5. 放送番組＋スクーリング
- 6. テキスト＋スクーリング
- 7. 放送番組だけ
- 8. テキストだけ

問19 今後、放送利用の大学公開講座でどのようなタイプの講座を取り上げたらよいと思われますか。特に取り上げたらよいと思われるものを1つだけ選んでください。

- 1. 専門的な学問の内容をわかりやすく解説するような講座（教養講座）
- 2. 特定の問題に対して色々な専門分野から総合的にアプローチするような講座（総合講座）
- 3. 専門的な学問を深く学習するために必要な基礎の修得を目的とした講座（専門基礎講座）



4. 専門的な学問の講座（専門講座）
5. 会話や文章による意志疎通のための実用的な語学力を養う講座（語学講座）
6. 実技指導を主とした趣味あるいはスポーツの講座（趣味・スポーツ講座）

問20 今後、放送利用の大学公開講座でどのようなテーマを取り上げたらよいと思われますか。具体的なテーマをお持ちでしたら〔 〕の中にお書きください。

〔 〕

(参考)

制作・放送科目等一覧

(昭和53年度～昭和62年度)

年度	実施大学	科目名	年度	実施大学	科目名
53	東北大学	①日本のなかの世界文化 ②食糧：その現状と未来 ③家族関係と法律	58	北海道大学	①北海道の資源 ②現代米小説講読
	金沢大学	④環境：その将来への対応 ⑤性格の科学		東北大学	①みちのくの村むら ②新しい物質 ③万葉集
	広島大学	①日本国憲法 ②生物の進化を考える ③方言と文化		金沢大学	①医学的リハビリテーション ②日本語を考える
54	東北大学	①地震災害と市民生活 ②がん制圧をめざして ③日本近代文学の形成と外国文学 ④青年期	大阪大学	①タンパク質 ②日本経済の見方	
	金沢大学	①がんの知識 ②現代と子ども ③ロック音楽	広島大学	①家庭と医療 ②「心」を育てる ③文学にあらわれた女性像	
	広島大学	①スポーツと生活 ②心の健康 ③人生とは何か	熊本大学	①薬の科学 ②熊本の文学	
55	東北大学	①発掘された古代史 ②生活の科学 ③おくのほそ道	北海道大学	①からだの科学 ②北海道文学の系譜	
	金沢大学	①海の科学 ②高齢化社会 ③心理学の基礎	東北大学	①よりよいくすりを求めて ②みちのくの仏像と信仰 ③幼年期	
	大阪大学	①病気の原因をさぐる ②大阪の学問	新潟大学	①文化を考える	
	広島大学	①自然災害と生活 ②たくましい子どもを育てる	金沢大学	①暮らしの中の先端技術 ②経済をよむ目	
	熊本大学	①生活の中の医療 ②文化と宗教	大阪大学	①わたしたちの病気と微生物 ②ことばの世界	
56	東北大学	①生命をひもとく ②古代史の世界 ③「平家物語」の世界 ④成人病	広島大学	①天然から得られる薬の話 ②王朝の女流文学	
	金沢大学	①加賀の伝統工芸 ②現代日本文学の展開 ③現代の社会病理	熊本大学	①「すまい」—マイホームの科学— ②熊本、黎明期の人びと	
	大阪大学	①暮らしと機械の頭脳 ②生きる	北海道大学	①低温とくらし ②法律夜話—法のことわざと民法—	
	広島大学	①瀬戸内の歴史と文化 ②交通と生活 ③平和を研究する	東北大学	①日本史の中の宮城 ②「方丈記」「徒然草」の世界	
	熊本大学	①現代の工学 ②家庭と教育	新潟大学	①にいがた 自然と環境 ②王朝女流日記の世界	
57	東北大学	①数学への招待 ②宇宙を探る ③王朝の歌と人 ④少年期	金沢大学	①健康・体力づくりを考える ②古典の再発見—いま・生き方の糧として—	
	金沢大学	①白山と生きものたち ②学校をみつめる ③現代家族法講話	*信州大学	①電子工学—エレクトロニクス入門—	
	大阪大学	①明日のエネルギーを求めて ②現代の暮らしと契約	名古屋大学	①宇宙・航空の時代を拓く	
	広島大学	①瀬戸内の水産物と食生活 ②感性を育てる ③酒の百科	大阪大学	①レーザーと未来社会—先端技術へのインパクト— ②日本を考える	
	熊本大学	①熊本の自然 ②近代熊本の思想と文化	広島大学	①生命の不思議を探る ②子どもの心の成長とその歪み	
			熊本大学	①水と人間 ②旅の文化	
			*琉球大学	①沖縄の農業	

年度	実施大学	科目名
61	北海道大学	① 情報化社会に生きる—経済とくらし— ② 近代ロシアの歴史と文学
	東北大学	① 人と国家と社会と—宮城経済近代化のダイナミクス— ② 現代人と食
	新潟大学	① からだの部分を取り換える—生命の維持と機能回復を求めて— ② 日本の古代音楽
	金沢大学	① 異なる文化の交流と衝突—文化人類学の視点から— ② 人間関係の心理学
	*信州大学	① 生物工学—バイオテクノロジーの展開—
	名古屋大学	① 水—人間とのかかわり—  ② 健康づくりの科学
	大阪大学	① 見る—先端科学技術の“目”— ② 私たちの生活の中での薬
	広島大学	① 広島経済を考える ② 家庭とは何であったか—19世紀の社会・人間・文化—
	*高知大学 (四国地区)	① 海をさぐる—その開発へのアプローチ—
	熊本大学	① “実年”の健康 ② 熊本—人とその時代—
	*琉球大学	① 沖縄のサンゴ礁
	62	北海道大学
東北大学		結晶：その生いたちと個性 —生物から無生物まで— ----- 経済大国日本の虚像と実像
新潟大学		変動する地球 —日本列島の成り立ちとその背景— ----- 現代青年のライフスタイル
金沢大学		大地と人間 —土木工学のロマン— ----- 北陸の風土
名古屋大学		ミクロの科学と人間生活 ----- 転換期の教育を考える
大阪大学		自然のしくみ —化学の眼— ----- 日本研究の先達
広島大学		日本の建築空間 ----- 性を考える
熊本大学		台所の科学 ----- くらしの中の法
信州大学		農業新戦略 —夢のある明日の農林業をめざして— ----- 近代信州の女性たち —歴史・文学・芸術にさぐる—
高知医科大学 (四国地区)		健やかな老後をめざして —高齢化社会への対応—
琉球大学 (沖縄地区)		沖縄の医療と保健 ----- 沖縄の戦後史